

[課題演習概要]

子どもの個性を生かす生活科学習指導  
—子どもの思いや願いの具現化に着目して—

野田 晴香  
Haruka NODA

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース

キーワード：生活科学習指導，個性，子どもの思いや願い，具現化，体験活動と表現活動の往還，場の工夫，冊子によるふり返り

1 研究の目的

「令和の日本型学校教育の構築を目指して～個別最適な学びと，協働的な学びの実現～」(2021)において，学習の個性化には子どもの興味・関心に即した選択肢があり，それに集中できる学びが保証される必要があると述べられている。このことを踏まえると，子どもの思いや願いを具現化し，選択肢を与えることで，子どもの個性を生かす生活科学習を展開することができると考えた。そこで本研究では，生活科学習の具体的な活動を通して子どもの思いや願いを具現化する中で，自分自身の可能性を発見すること，行動の仕方の中にある自他のよさに気付くこと，これからも挑戦したいという自信をもつこと，それらを認め合うことができる力を育成すること，つまり，子どもの個性を生かす生活科学習指導のあり方を明らかにしていく。

2 研究の計画

4～5月	先行研究
6～12月	授業実践
12月	授業実践，成果の分析・まとめ

3 研究の内容

(1) 研究の概要

先行研究において，芋生(1993)は子どもの思いや願いの深まり・広がりをもつことを「直感的な願い」「創造的な願い」「価値的な願い」の3段階で示している。

私はこの3段階に加え，生活に生かしながらこれからの生活の在り方につなげていく「発展的な願い」の4段階に沿って子どもの思いや願いが深まり・広がりをもつと考えた。

その4段階の子どもの思いや願いは，単元の中で体験活動と表現活動を往還することで連続・発展していくと考える。それによって，自分自身の可能性を発見し，これからも挑戦していきたいという自信につながる。また，子どもが自らのよさや可能性，成長に気付くためには，学習のふり返りが重要となる。

本研究では，体験活動と表現活動を往還する中で子どもの思いや願いの深まり・広がりを促すための手立てとして，子どもの思いや願いが連続・発展し，個性が生かされる「場の工夫」と自分自身の思いや願いを常に思い出すことができる表現物による「ふり返り」の2つを構想した。

(2) 授業実践

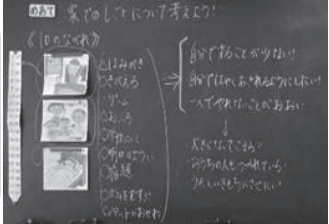
単元名	じぶんでできるよ
配当時間	7時間
学習者	A市B小学校第2学年
単元の目標	家庭での生活をふり返り，家庭での生活は互いに支え合っていることに気付き，自分の役割を積極的に果たすとともに，友達との役割のよさを見付け，自分も挑戦しようとする事ができるようにする。

(3) 単元構成と場の工夫及びふり返り

**① 直感的な願い**

【期待する子ども像】  
お家の人に手伝ってもらってばかりだな。  
自分でもなにかできないかな。

【場の工夫】  
1日の流れが分かる板書の工夫を行うことで，お家の人が行っている仕事が多いことに気付かせる。



② 創造的な願い

**体験活動(1)**  
《期待する子ども像》  
お家の人は、家の中でどんな仕事をしているのかな。どんな気持ちでしているのかな。  
《場の工夫》  
インタビュー用の学習プリントを用意することで、家庭での学習が円滑に進む環境を作る。

**表現活動(1)**  
《期待する子ども像》  
この仕事にチャレンジしたい！上手くてできるかな？楽しみだな。  
《場の工夫》  
チャレンジする仕事を1つ決めることで、実行する際に気を付けたいことを意識させる。

生活学習への協力について(お願い)

生活学習「ふんでてきる」という単元の授業を担当させていただいたことになり、この単元では、子どもたちが家庭の一員として家庭の仕事に挑戦する中で、子どもたち自身の成長や可能性を広げていく学習になっています。  
今回保護者の皆様にお願いしたいことは、右下にある「お家の人からのコメント」の欄です。お家の人に行ったインタビューをもとに、子どもたちが挑戦したいことを1つ選んでいます。挑戦している間に、声かけを行なうサポートをして頂けると嬉しいです。また、お手紙をおかけしますが、子どもたちに向けた一言コメントをお願いしたいと思っています。  
お忙しい中、大変感をおかけしますが、よろしくお願ひ致します。

保護者へ協力依頼を配付することで、子どもたちが挑戦しやすい環境づくりを行う。

③ 価値的な願い

**体験活動(2)**  
《期待する子ども像》  
こうやってみよう！うまいかかないな。  
《場の工夫》  
活動中の絵が描ける学習プリントを用意することで、チャレンジした活動がイメージしやすいような工夫を行う。

**表現活動(2)**  
《期待する子ども像》  
このチャレンジしてみたいな。友達はこの気を付けたんだ！  
《場の工夫》  
同質班と異質班で発表する場を2回設定することで、友達の頑張りを見付け、次のチャレンジに向けた意欲を高めさせる。

ふり返り



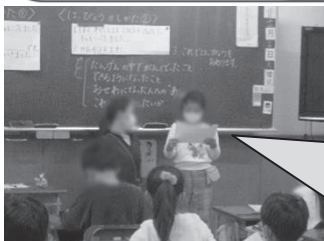
同質班と異質班で発表する場を2回設定することで、自他のよさ、自信や可能性に溢れた姿を促す。

④ 発展的な願い

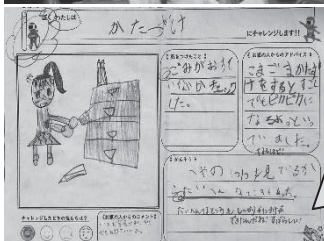
**体験活動(3)**  
《期待する子ども像》  
こんなことにチャレンジしたい！これもできるようになったぞ！  
《場の工夫》  
形式を統一した学習プリントを配付することで、子どもたちが繰り返し使用しやすく、家庭での活動を円滑にさせる。

**表現活動(3)**  
《期待する子ども像》  
こんなことができるようになった！お家の人も褒められて嬉しい！  
《場の工夫》  
クラスの前で発表する場を設けることで、単元を振り返り、自己の成長を見直し、自己肯定感や自己有用感を高めさせる。

ふり返り



新しいチャレンジをみんなの前で発表することで、これからの生活につながるやる気や自信を促す。



学習プリントへのコメントを徹底することで、子どもたち一人一人の思いや願いを大切にする。



お家の人へ手紙を書くことで、子どもの頑張りを家庭でも認めてもらい、自信や可能性につなげる。

4 成果と課題

子どもたちの思いや願いを4段階に分析し、体験活動と表現活動を往還する中、以下の表のような子どもたちの個性が具現化された。

【表 活動の中で具現化された個性】

	A児	B児	C児	D児
自他のよさ	③みんないいと思った。 ④お著洗いと片付けを頑張った。	④掃除を端から端まで、一番頑張った。	③学校に行く前にゴミ出しをしてすごい。	④掃除と料理を頑張った。
認め合い	③ご飯の献立を考えるのをやってみよう。 ④前までこんなに家の人が頑張っていたんだと思った。	③床掃除の仕方を真似したい。	③袖をあげれば手が濡れないと教えてくれた。	③掃除で隅々まできれいにしたのかわい。
自信	④苦手なのに楽しくなってきた。	③掃除をしたら綺麗になって嬉しかった。 ④お母さんに喜んでもらった。	③お母さんが嬉しそうだったし、ほめられて嬉しかった。 ④お姉ちゃんとお母さんが「美味い」と言って言ってくれて嬉しかった。	③家族を喜ばせたい。 ④料理ができるようになった。
可能性	④お箸を洗ったら次は食器も洗いたくなかった。 ④これからもっと自分でできることを増やしたい。	④これからもいっぱいお手伝いをして役に立てたい。	④これからも続けたい。	③次は料理にチャレンジしたい。 ④これから自分で作れる時はしようかな。

(成果○課題●)

子どもたちの思いや願いを具現化することで、以下のような成果と課題が明らかになった。

- 場の工夫や学習プリントによるふり返りを行うことで、「掃除をしたら綺麗になって嬉しかった(自信)」「これから自分で出来ることをもっと増やしたいなあ(可能性)」とこれからの生活につながるような姿や記述が見られ、個性を生かすことができた。
- 体験活動と表現活動の往還として、仕事をすする場を2回、発表の場を2回設定することで「みんないいなと思った(他者のよさ)」と自身の頑張りを認める姿が見られた。
- 体験活動を行う場が学校外であるため、活動をしている姿をみとることが出来ない。よって、活動の場が見えるようにICTや写真等を活用することで、発表の際に具体的なイメージを相手に伝えることができるようにする。

主な引用・参考文献

文部科学省 2017 小学校学習指導要領解説生活編  
 文部科学省 1998 教育課程審議会答申  
 渋谷憲一 1995 日本学校教育学会「個性を生かす教育」の現状と課題  
 芋生修一 1993 平成4年度福岡県長期派遣研修報告「自己の願いが生きる生活学習―意欲的に活動する場の工夫―」  
 須本良夫 2018 生活科で子どもは何を学ぶかーキーワードはカリキュラム・マネジメントー  
 加藤幸次 1989 個性を生かす先生(図書文化)  
 加藤幸次 2021 「『指導の個別化』『学習の個性化』で授業のモードを変える」新教育ライブラリPremierII Vol.2「令和の『個別最適な学び・協働的な学び』～学びのパラダイムシフト～」(ぎょうせい)